



平成23年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 チヨダ

コード番号 8185 URL <http://www.chiyodagrp.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 舟橋 政男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 成田 裕

TEL 03-3316-4134

四半期報告書提出予定日 平成22年10月14日

配当支払開始予定日

平成22年11月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年2月期第2四半期の連結業績(平成22年3月1日～平成22年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年2月期第2四半期	79,564	△6.5	1,785	△21.7	2,040	△20.5	220	△42.4
22年2月期第2四半期	85,061	—	2,280	—	2,567	—	382	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年2月期第2四半期	5.55	—
22年2月期第2四半期	9.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年2月期第2四半期	123,707	70,300	52.6	1,636.82
22年2月期	130,583	73,109	51.5	1,691.68

(参考) 自己資本 23年2月期第2四半期 65,017百万円 22年2月期 67,197百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年2月期	—	20.00	—	60.00	80.00
23年2月期	—	40.00	—	—	—
23年2月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年2月期の連結業績予想(平成22年3月1日～平成23年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	158,372	△4.9	3,174	△7.0	3,738	△7.4	453	—	11.40

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】5ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年2月期2Q 41,609,996株 22年2月期 41,609,996株

② 期末自己株式数 23年2月期2Q 1,887,965株 22年2月期 1,887,347株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年2月期2Q 39,722,268株 22年2月期2Q 39,723,682株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想と異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」及び平成22年10月5日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(参考) 個別業績予想

平成23年2月期の個別業績予想(平成22年3月1日～平成23年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	112,603	△1.1	3,445	△8.7	4,080	△12.3	1,510	81.8	38	01

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
4. 補足情報	12
(1) 個別経営成績(累計)	12
(2) 個別財政状態	12

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、当初は外需を中心とする大手企業において企業収益、設備投資の緩やかな改善傾向が見られましたが、6月以降欧米の先行き不安による急激な円高により外需を中心とする企業において企業収益の低下や設備投資の抑制傾向が見られました。一方、内需においては引き続きデフレ環境の中、エコカー補助金やエコポイントなどを背景とした一部産業において特需が発生いたしました。また、3月から4月の異常な低温気象や7月以降の記録的な猛暑により、恩恵を受けた企業と損失を受けた企業が生まれました。

このような状況は、天候や個人消費の動向と連動する内需型産業である小売業にとっては極めて厳しい経済環境と言わざるを得ず、当社グループにおきましても厳しい売上状況が続きました。その上3月から4月の異常な低温気象の影響を受け、靴部門、衣料品部門ともに春物商品及び初夏物商品の販売が極端に振るわず大幅な減収となるとともに、7月以降の記録的な猛暑の影響を受け、低単価な夏物商品は好調だったものの定番商品の売れ行きが低迷し、また8月には靴部門、衣料品部門ともに初秋物商品の販売が極端に振るわず大幅な減収となりました。

収益面におきましては、当社グループは、従来から進めてまいりましたPB(プライベートブランド)及びNPB(ナショナルプライベートブランド)戦略の推進による粗利益率の向上、販管費の抑制、慎重な出店戦略の推進、不採算店のリストラなどに取り組んでまいりましたが、当第2四半期連結会計期間において前年同期と比較して増益となったものの、当第1四半期連結会計期間の大幅な減益を補うことが出来ず、当第2四半期連結累計期間では減益となりました。

当第2四半期連結累計期間の出退店は、出店46店、退店54店を実施し、当第2四半期連結会計期間末店舗数は、1,726店(前年同期比28店減)となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高79,564百万円(前年同期比6.5%減)、営業利益1,785百万円(同21.7%減)、経常利益2,040百万円(同20.5%減)、四半期純利益220百万円(同42.4%減)となりました。

事業部門別の業績の概要は次のとおりであります。

<靴部門>

当第2四半期連結累計期間における靴部門の売上は、3月から4月は天候不順による春物商品及び初夏物商品の販売低迷による客数の低下及び消費者の低単価志向の影響による商品単価の下落の影響を受け、また、7月以降は記録的な猛暑により低単価な夏物商品は好調に推移したものの、定番商品及び初秋物商品の販売低迷による客単価の下落と客数の低下の影響を受け、既存店売上が想定を下回る状況で推移いたしました。

商品面におきましては、本革紳士靴はデフレの影響もあり苦戦を強いられましたが、有名タレントを起用した紳士靴の「ハイドロテック」シリーズ2割引の新聞広告(6月実施)は大成功をおさめました。また期中を通じ中級価格PB「ハイドロテックブラックコレクション」は好調に推移いたしました。チラシの目玉品を収益化する粗利益の構造改革として取り組んだ「990プロジェクト」は大きくテレビや雑誌に取り上げられ話題を呼びました。また、多彩なラインナップを誇る「セダークレスト」の新たな試みとして、カリスマ読者モデルをイメージキャラクターとした「セダークレスト・オレンジスター」や、男性用として水洗いできる清潔トラッド「セダークレスト・ウォッシュヤブル」を発売し好評を得ました。婦人靴はNPBの「エルプラネット」の投入効果もありヒール関連が好調に推移いたしました。また、有名タレントを起用している婦人用カジュアル「キレイウォーク」が話題を呼び二桁増となりましたが、7月以降猛暑の影響もありカジュアル全般では苦戦を強いられました。子供靴関連は、主として消費の冷え込みにより販売数量が大幅に減少し二桁減となりました。スニーカー部門は、ナイキ、アディダスに代表されるグローバルブランド品の競争激化により、単価及び販売数量が減少し二桁減となりました。また、猛暑の影響を受けビーチサンダルをはじめとしてハッピー・サンダル類は好調に推移いたしました。なお、PB及びNPB等のシェアは前年同期と比較して6ポイント増の約28%と飛躍的に増加いたしました。

粗利益率におきましては、当第1四半期連結会計期間にデフレに対する過剰な反応により大きく単価を落とし、前年同期を大幅に下回りましたが、当第2四半期連結会計期間は過度な低価格化を抑制し客単価を押し上げた結果、当第2四半期連結累計期間の靴部門の粗利益率は前年同期を若干上回りました。経費面では、退職給付費用等が増加いたしました。人件費の抑制等により、前年同期を若干下回りました。営業利益は、当第2四半期連結会計期間は若干増益となったものの、当第1四半期連結会計期間の大幅な減益を補えず、当第2四半期連結累計期間は前年同期と比較して大幅な減益となりました。

当第2四半期連結累計期間の出退店は、シュープラザ、東京靴流通センターを中心として出店36店、退店35店を実施し、当第2四半期連結会計期間末店舗数は1,193店(前年同期比2店増)となりました。

この結果、売上高は59,083百万円(前年同期比3.2%減)となりました。

<衣料品部門>

当第2四半期連結累計期間における衣料品部門の売上高は、3月から4月の天候の不順による春物商品及び初夏物商品の低迷により客数・客単価ともに伸び悩みました。また、6月以降も景況感の厳しさから消費者の買い控えや低価格志向が依然として強く、客数・客単価ともに伸び悩み、既存店売上、全店売上ともに二桁減収で推移いたしました。

商品面におきましては「セダークレスト」のアパレルを新展開するとともに、PB商品「ラッシュアワー」においてファッション雑誌とのタイアップ企画によるプロモーション活動を行うなどの施策を実施いたしました。6月上旬に「セダークレスト」ブランド拡販のため、アウトドアイベントに出店し、6月中旬にはファッション雑誌モデルを起用したTVCMを行うとともに、連動したチラシを実施し多目的に販促活動を強化することにより、客層拡大に注力いたしました。一般的にキッズ商品が比較的堅調に推移した一方で、主力となるメンズ及びレディースのジーンズやカットソーが不振となりました。

粗利益率は前年同期を維持したものの、大幅な売上の減収が影響し粗利益高は大きく下落いたしました。経費面では、新規出店の抑制、不採算店舗の閉店に加えコスト全般の戦略的なコントロールに注力いたしましたが、売上総利益高の減少を補うに至らず営業損失となりました。

当第2四半期連結累計期間の出退店は、10店を新規に出店し、19店の退店を行い、当第2四半期連結会計期間末店舗数は533店（前年同期比30店減）となりました。

この結果、売上高は20,480百万円（前年同期比14.7%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

財政状態の分析

(資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における当社グループの総資産は、123,707百万円（前連結会計年度末比6,875百万円減）となりました。

流動資産は、71,964百万円（前連結会計年度末比4,769百万円減）となっております。これは、主として現金及び預金が36,841百万円（前連結会計年度末比1,968百万円減）となったこと及び商品が30,362百万円（同2,720百万円減）となったことによるものであります。

固定資産は、51,743百万円（前連結会計年度末比2,106百万円減）となっております。これは、主として敷金及び保証金が22,789百万円（前連結会計年度末比920百万円減）、長期預金が1,500百万円（同500百万円減）となったことによるものであります。

(負債の状況)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、53,407百万円（前連結会計年度末比4,066百万円減）となりました。

流動負債は、39,605百万円（前連結会計年度末比4,091百万円減）となっております。これは、主として支払手形及び買掛金が26,648百万円（前連結会計年度末比4,032百万円減）となったことによるものであります。

(純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、70,300百万円（前連結会計年度末比2,808百万円減）となりました。これは、主として利益剰余金が53,465百万円（前連結会計年度末比2,162百万円減）となったことによるものであります。自己資本比率は52.6%（前連結会計年度末比1.1ポイント増）となっております。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は421百万円（前年同期は150百万円の減少）となりました。

これは主に「税金等調整前四半期純利益」881百万円、「減価償却費」737百万円、「減損損失」988百万円、「賃借料との相殺による保証金返還額」529百万円、「たな卸資産の減少額」2,719百万円等の増加と、「退職給付引当金の減少額」176百万円、「仕入債務の減少額」4,401百万円、「法人税等の支払額」876百万円等の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果増加した資金は146百万円（前年同期は4,568百万円の減少）となりました。

これは主に「有形固定資産の取得による支出」615百万円、「敷金及び保証金の差入による支出」172百万円等の支出と、「定期預金の払戻による収入」463百万円、「敷金及び保証金の回収による収入」557百万円等の収入によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は2,633百万円（前年同期比178.2%増）となりました。

これは主に「長期借入れによる収入」500百万円の収入と、「長期借入金の返済による支出」501百万円、「配当金の支払額」2,380百万円等の支出によるものであります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の「現金及び現金同等物の四半期末残高」は34,867百万円（第1四半期連結会計期間末比2,027百万円増）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期におきましては、現下のデフレ傾向は容易に解消されないと予測され、消費全般の回復も極めて難しい状況と認識しております。今後、さらなる雇用情勢の悪化、所得の減少が続けば、当社グループが属する小売業界には大いなる逆風になるものと予測しております。

このような状況下、当社グループといたしましては主力部門である靴部門では、PB商品の拡充による粗利益率の向上をさらに確実なるものにするべく、商品開発とマスメディアを用いた全国統一型のキャンペーンの拡大を行うほか、経費面におきましてもより効率化を図ってまいります。衣料品部門におきましては、不採算店の閉鎖を推し進めるとともにコスト削減に注力し、販売の増加が見込める商品構成への転換を図ってまいります。

なお、平成22年10月5日付で連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. その他の情報

- (1) 重要な子会社の異動の概要
該当事項はありません。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要
該当事項はありません。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	36,841	38,810
受取手形及び売掛金	2,229	2,133
商品	30,362	33,083
繰延税金資産	598	680
その他	1,950	2,043
貸倒引当金	△18	△17
流動資産合計	71,964	76,733
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,198	5,506
機械装置及び運搬具(純額)	4	5
工具、器具及び備品(純額)	588	645
土地	3,382	3,395
リース資産(純額)	635	521
その他	30	46
有形固定資産合計	9,839	10,120
無形固定資産		
その他	4,008	4,166
無形固定資産合計	4,008	4,166
投資その他の資産		
投資有価証券	9,197	9,225
長期預金	1,500	2,000
敷金及び保証金	22,789	23,710
繰延税金資産	3,415	3,394
その他	1,176	1,440
貸倒引当金	△182	△207
投資その他の資産合計	37,895	39,562
固定資産合計	51,743	53,849
資産合計	123,707	130,583

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,648	30,680
ファクタリング債務	4,109	4,482
短期借入金	790	840
1年内返済予定の長期借入金	1,037	942
リース債務	159	118
未払法人税等	1,257	1,015
未払消費税等	354	171
賞与引当金	563	635
店舗閉鎖損失引当金	332	292
リース資産減損勘定	557	491
その他	3,796	4,027
流動負債合計	39,605	43,696
固定負債		
長期借入金	2,334	2,431
リース債務	500	405
退職給付引当金	7,454	7,631
役員退職慰労引当金	607	591
転貸損失引当金	578	525
長期預り保証金	801	812
長期リース資産減損勘定	1,058	948
負ののれん	62	70
その他	402	359
固定負債合計	13,801	13,777
負債合計	53,407	57,474
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,893	6,893
資本剰余金	7,489	7,489
利益剰余金	53,465	55,628
自己株式	△3,025	△3,024
株主資本合計	64,822	66,986
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	195	211
評価・換算差額等合計	195	211
少数株主持分	5,282	5,911
純資産合計	70,300	73,109
負債純資産合計	123,707	130,583

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年8月31日)
売上高	85,061	79,564
売上原価	47,344	43,692
売上総利益	37,717	35,872
販売費及び一般管理費	35,436	34,087
営業利益	2,280	1,785
営業外収益		
受取利息	61	57
受取配当金	33	35
受取家賃	661	647
受取手数料	205	212
その他	124	119
営業外収益合計	1,086	1,072
営業外費用		
支払利息	33	37
不動産賃貸費用	643	588
転貸損失引当金繰入額	102	177
その他	20	13
営業外費用合計	799	816
経常利益	2,567	2,040
特別利益		
固定資産売却益	60	65
貸倒引当金戻入額	29	11
転貸損失引当金戻入額	23	45
店舗閉鎖損失引当金戻入額	—	17
違約金収入	76	15
保険差益	—	4
特別利益合計	190	160
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	46	60
投資有価証券売却損	—	0
投資有価証券評価損	0	—
減損損失	1,229	988
店舗閉鎖損失	105	37
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	221
リース解約損	—	10
特別損失合計	1,382	1,318
税金等調整前四半期純利益	1,375	881
法人税、住民税及び事業税	459	1,155
法人税等調整額	858	72
法人税等合計	1,317	1,227
少数株主損失 (△)	△325	△566
四半期純利益	382	220

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成21年 3 月 1 日 至 平成21年 8 月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 3 月 1 日 至 平成22年 8 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,375	881
減価償却費	742	737
減損損失	1,229	988
貸借料との相殺による保証金返還額	562	529
のれん償却額	64	—
固定資産売却損益 (△は益)	△60	△65
固定資産除却損	46	60
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	0
投資有価証券評価損益 (△は益)	0	—
店舗閉鎖損失	105	37
違約金収入	△76	△15
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△30	△24
賞与引当金の増減額 (△は減少)	25	△71
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	216	△176
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	12	15
転貸損失引当金の増減額 (△は減少)	18	53
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	—	39
受取利息及び受取配当金	△95	△93
支払利息	33	37
売上債権の増減額 (△は増加)	△400	△96
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,546	2,719
仕入債務の増減額 (△は減少)	△4,590	△4,401
未払費用の増減額 (△は減少)	—	115
未払消費税等の増減額 (△は減少)	27	182
その他	234	△175
小計	988	1,279
利息及び配当金の受取額	59	59
利息の支払額	△38	△40
法人税等の支払額	△1,126	△876
法人税等の還付額	20	—
過年度法人税等の支払額	△53	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△150	421

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△461	△60
定期預金の払戻による収入	482	463
短期貸付けによる支出	—	△0
有形固定資産の取得による支出	△921	△615
有形固定資産の売却による収入	75	38
有形固定資産の除却による支出	△32	△40
無形固定資産の取得による支出	△3,327	△3
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却及び償還による収入	4	0
敷金及び保証金の差入による支出	△659	△172
敷金及び保証金の回収による収入	693	557
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△436	—
その他	15	△20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,568	146
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	602	△50
長期借入れによる収入	—	500
長期借入金の返済による支出	△565	△501
割賦債務の返済による支出	—	△44
リース債務の返済による支出	—	△88
自己株式の取得による支出	△1	△0
子会社の自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△799	△2,380
少数株主への配当金の支払額	△127	△62
その他	△55	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△946	△2,633
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,666	△2,065
現金及び現金同等物の期首残高	39,402	36,932
現金及び現金同等物の四半期末残高	33,736	34,867

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)

当社及び連結子会社は、その取扱い商品の種類、性質、販売市場等の類似性から判断して、同種の服飾関連事業(靴、衣料品等)及び補完的事業を営んでいるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成22年3月1日 至平成22年8月31日)

当社及び連結子会社は、その取扱い商品の種類、性質、販売市場等の類似性から判断して、同種の服飾関連事業(靴、衣料品等)及び補完的事業を営んでいるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)

当社及び連結子会社は、すべて国内に所在しているため、該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成22年3月1日 至平成22年8月31日)

当社及び連結子会社は、すべて国内に所在しているため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成22年3月1日 至平成22年8月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

平成23年2月期第2四半期の個別業績(平成22年3月1日～平成22年8月31日)

(1) 個別経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年2月期第2四半期	57,401	△3.1	2,449	△22.3	2,765	△23.9	1,089	3.4
22年2月期第2四半期	59,210	—	3,154	—	3,634	—	1,054	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年2月期第2四半期	27	44	—	—
22年2月期第2四半期	26	54	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
23年2月期第2四半期	93,973		57,752		61.5	1,453	91	
22年2月期	95,000		59,063		62.2	1,486	89	

(注) 四半期個別財務諸表は、法定開示におけるレビュー対象ではありません。